

の樣子のちがつて来た點は、我がまゝが少くなつて来た事でありませう。これまでは幼弟幼妹と遊び戯れるにしましても、やゝもすれば我が儘勝手をやる癖がありますし、或は偏狹に自分の者を他に貸し與へ、或は分ち與へるに吝であつたものが、だんだん、我が儘勝手がへつて來ましたし、自分の持ち物であつた玩具を貸し與へたり、菓子其の他のものを幼弟妹に分ち與へる等應揚になつて來ました。子供の性質にもより、家庭の仕つけの如何によつて、利益をうける方面も一樣ではなからうが、私の子供は此の點に於て大に利益を受けました。次には或るか友達の特別の感化を受けました。それは幼稚園のか友達に哲ちゃんといふ子が居ります。此の子は天才であるか修練の結果であるか、兎に角非常に繪がうまい。殊に動物の繪が上手だ。毎日哲ちゃんのかいた動物の繪を買つて來ては、紙を下さいといふ。紙を與へると鉛筆を以て毎日まねてはかき、寫してはかきして居たが、終には之に満足しないで、動物の繪の本を買つて下さいといふ。買つて與へると、それを下にかい

て寫してかくやら、眞似てかくやら、終には馬なり象なり麒麟なりお手本を見ないで、どうやらかうやら格好がとれて、それとわかる様に進歩して參りました。是等は一般に受けた感化と、特別に受けた感化と、各其の一例に過ぎないが、此の外色々の感化をうけたとは明瞭であります。なほ對人關係に統ては婢僕との關係、祖父母との關係、出入する人との關係等様々ありますけれども、あまりくだくだしくなりますからやめておきます。

しかし此の對人關係は至極大切な事であつて、之によりて其の人の人格は定まる、其の人の人生觀は定まるかとも思ひますから、これから先も十分注意に注意を加へて行く考であります(まだある)

都會は子供を育つるに都合よきか

雨 峯 生

1 都會は子供を育つるに都合よきか、それとも都合わるきかは、都會に住んでゐる人に取つて、非

常に重大なる問題であつて、決して雲烟過眼視すべき問題でないと思ひます。又是非とも解決をつくべき問題であつて、都會がよければ、よいが上にもよいやうにせんとをつとめ、都會がわるければ、其のわるい點を成るべく矯正せんとをつとめなければならぬと思ひます。それ故に私は自分の考察したを申し上げて、皆様方の御參考に供したいと思ひます。

居は氣をうつす。孟子といふ支那の賢人のお母さんは、孟子を育つるために、三度其の家を遷したと申します。これ孟母は、周囲の事情の子供に及ぼす影響が善惡ともに大なるを認識したからでありませう。孟母ならぬ人も、苟も我が子の教育に力を盡して居る人は、三遷は愚な事、五遷も六遷も敢へて辭する所では無からうかと思ひます。それは何故であらうか、昔の語にもある通り、居は氣をうつすからでありませう。も一步進んでいへば、境遇の感化勢力はなかなか大であつて、寧ろ境遇人を作るといふ方が適當であるからでありませう。さらば東京のやうな大都會が子供に及ぼす影

響は、善か悪か。

3 都會は子供の健康に宜しくない。春の川山なき國をながれけりて、阪東太郎、名を取つた利根川のやうな川が、見渡す限り平蕪の地、目を遮る山もなければ、まして月日も行き憚るといふ高山もない、其の平原の中をうねりうねつて流れて居る。吹ひて来る空氣は、清潔で、上下なる白帆は穩である。かやうな平原に居れば矢張り其の平原的の感化を受けずには居られぬ。又奈良七重七堂伽藍、重櫻で、古の奈良の都のあつた處、山はと見れば檜川高い山はないけれども、芳草生ひ茂れる若草山や、老杉古松森々と生ひ茂つてゐる春日山を始めとして、種々歴史に關係のある山々に取りかこまれて居る古京の地、春日神社はものさびて、神鹿は人に馴れ、東大寺の大佛、興福寺の伽藍、法隆寺の夢殿や、唐招提寺の五重の塔、猿澤の龍には金魚鯉ひれて龜が遊んで居る。見るもの聞くもの一として、前世紀のものでないものはない。かやうな土地に生長するものは、どうしても亦かういふのんきな周囲の影響を受けずには居られ

ぬ。それから又目に青葉山はととぎす初鯉で、目に見ゆるものは新緑。滴るばかりの青葉か、さらすば、春の海ひねもすのたりのたりかなの大海で耳にきくものは、梢にさへつる頬白か、空に歌ふ告天子か、雲井に名のるほととぎすか、口に入るものは、鎌倉をいきて出でけり初鯉で、かやうな處に住まへば、又かういふやうな影響をうける。然るに東京のやうな都會はどうであらうか。吹いて來る風は何をもたらすか。海の上を吹いて來た、清潔なオゾンに富んだ空氣ではない。青葉若葉を吹いて來た酸素に富んだ清涼な空氣ではない。春夏秋冬の四季を問はず、常に黄塵萬丈の汚濁な空氣である。その中に混じて居るものは、馬糞もあらう、肺病患者の痰もあらう。考へればゴツト身ぶるひが出るのである。第一番都會に萬人が萬人とも必要の食物とする空氣が汚れて居るのである。その汚れた空氣をば、子供は生れ落ちた時から呼吸して居るのである、どうしてもかやうに汚れた空氣はよい影響を子供の健康に與へぬのである。次には日の照らし方が違ふ。一體太陽の

方は廣大無邊で、あつて上下貴賤の區別を御立てになるとはない。八方世界を遍照したまふけれども、徳兵工廠の煙突や、上野新橋の汽車の煙や、各種製造所の煙突の煙は、始終空氣を汚しつゝ、あつて居る。それに前にいつたやうに黄塵は立ち舞つて居る。かやうに汚濁な空氣の中を通過して來る太陽の、光線だもの、どうしても山なり海なり平原なりの空氣の清潔な所にさして來る光線とはちがふ。太陽の光線も赤健康とは大關係のあるもの、その光線がかやうな譯であるから、都會はどうしても子供の健康に善からう筈がない。田舎ならばどんな小さな家でも、庭もあれば敷もある、樹木もあれば草花もあつて、たとひ百姓家の、室内は不潔勝であらうとも、屋外一步を踏み出せば、小供に取つては良好なる遊歩場、適當なる運動場がある。村の鎮守は彼等の公園で、廣々とした野や山や原や、は彼等の植物園で、そこには動物も種々あるから又動物園を兼ねたものである。子供は是等の處を己が天地として、自由に勝手に活動するからして、子供の身體はほとんどん發達するし、子供の

健康はほとんど増進するのである。然るに東京のやうな大都會に於ては、貴族や富豪やを除いて、其の他一般の人の家には、庭といふものが殆んど無い、よしや有つても唯ほんの名ばかりの物であつて、とても子供の運動場たる資格を持つて居らぬのである。屋外へ踏み出せば、そこには人力車が通へば、馬車も通ふ。牛車も荷馬車も、轟々たる電車も、右往左往目もまよばかりに往來して居て、一寸注意を怠れば、忽ち生命に危害を及ぼすといふ危険が伴ふからして、到底子供の遊び場所には適當しない。若し遊んで居れば巡査はどしどしと叱言をいつて追つ拂つて仕舞ふ。さうかといふて、子供の遊ぶに適當な公園や、神社佛閣の境内や、植物園や動物園があつても、とても二百万の人口を有する大都會の子供を満足せしむるに足りない。それ故に子供は勢、家の中に引込ひか、狭い庭で遊ぶか、或はびくびく道路で遊ばなければならぬ。それだからどうしても子供の身體の發達が十分でない、健康も亦十分でないのである。都會は子供をして自然に接せしめない。子供の

健康の上から見た都會は甚だ面白くない、前述の通りであるが、智力發達の上から見た都會も亦甚だ面白くない。田舎に生長する所の子は、幼少の時分から、日本人の常食とする所の米、重要な農産物たる米に就て、ゆるりと觀察する事が出来るのである。即ち苗代田に種子を蒔き下された事、だんだん生長したる後、苗取をやつて、いはゆる田植といふををするを、なほ生長して夏もすまれば穂を出し、花を開き、二百十日、二百二十日も無事に濟めば、まづ今年の收穫は確である、安心する内に、何處の田も黄なる浪を漲らし、彼處の家にても此處の家にも稻蒨を始める。更に刈りたる稻を千齒にしこき、日にかわかし之を唐臼にて挽き、唐箕や千石通しにかけて、いはゆる玄米にして俵にする、その一部始終を觀察する事が出来る。そして稻が種から米の飯となつて吾々の口に入るまでのを正當に理解し、已が智識とする事が出来るのである。右は一の例を上げたに過ぎないが、麥にせよ、大豆にせよ、蠶にせよ、其の他の植物にせよ、皆かういふ風に抑の始めより、

いよいよ終りまで觀察して、皆己が智識とするのである、然るに都會に於てはなかなかこれが出來ない。目に入るものは青き麥ではない、黄なる稻ではない、耳に入るものは頬白の聲でもない、ほととぎすの音でもない。自轉車である、人力車である、馬車である、電車である、自動車である。それでなければ餘所の家の屋根である。刺激が甚だ多いのである、又甚だ強いのである。けれども一物を始めから終りまで觀察するものが出來ぬのである。それ故に其の觀察はどうしても上つ面だけで、且薄つべらである。一眸子供はまだ頭腦があまり發達して居らぬから、刺激はあまり強くない方がよい、その數も多くない方がよい、それから徐々と來る方がよい。そして簡單な方がよい。田舎は丁度之である。田舎はかういふ點からも子供に適して居る。然るにかういふ點から見ると都會は一つも合格しない。刺激が甚だ強すぎる。甚だ數が多い、そして急激に來る、しかも複雑である。子供の發達しない頭には、とても刺激に應じきれぬのである、とても負擔に堪へきれぬのである。

それ故に或る者は機敏のやうにはあるが、一物の關する智識がまとまらない。極めて淺薄な智識を得るのである。そして自然に關する正當な智識が得られない。かういふ點から見ると、都會は子供をして自然に接せしめないというて宜しい、隨つて初步の教育地として不適當であると斷言して差支なからう。

都會は便利過ぎて却つて子供に悪影響を與へる田舎では隣村へ行くにも、町に出づるにも、人力車もなければ、況して馬車も電車もない。それ故に自己の足をたより、自己の力を頼まねばならぬ。然るに都會には電車もある、人力車もある、一寸出かけるにも是等外物の力を借りて、自己の力に依頼せぬのである。田舎ではお金を使はうにも、子供の目を刺激するやうな玩弄物店だの、菓子屋などが遠くにある。都會になると、それはそれは一步踏み出せば、皆子供の慾望を刺激するやうな物ばかりである。此の點からいつても都會は子供の教育上餘り好まし所といふとは出來ぬ。

都會は子供を育つるに都合がよくない。以上わ

げ來つた所によると、都會は子供の健康に宜しくない、都會は子供をして自然に接せしめない、都會は便利過ぎて却つて悪影響を與へる。それ故に都會は子供を育つるに都合がよいかといふ問に對しても、然り都合が宜しいと答へるとは出来ない。否寧ろ都會は子供を育つるに都合がわるいと答へざるを得ない。(をはり)

國學院大學にては校舎本館の新築落成したるを機とし左記諸大家に委嘱して來る八月一日より夏期講習を開設する由、聽講料は貳圓五拾錢なりとぞ

◎講習科目及講師

國文學の特質及其の變遷の大綱 文學博士 芳賀矢一君
(十二時間)
國文研究に必要な歴史事項 文學博士 萩野由之君
(二十四時間)

作詩法附支那戯曲小説の大要 森 槐 南君
(十二時間)

漢字漢文に關する史的觀察の一斑 岡田正之君
(二十四時間)

科 外

日本語源論沿革 文學博士 上田萬年君
文學史料としての古文書 文學博士 三上參次君
支那文學談 文學博士 市村瑞次郎君

余がノート

大元 茂一郎

はしがき

ヨハン、ハインリッヒ、ベスタロツチは、溢る許りの熱誠を以て、幾多の困苦失敗に屈せず、貧兒教育に力をつくしたといふことは、教育史の吾人に教へて居る所であるが一千年後の今日、ベスタロツチだけの赤誠を以て兒童教育に従事せるもの果して幾人かある。明治のベスタロツチは健任なりや。兒童教育は面白いもの殊に幼兒に於て然りである其思想をたゞげば天真爛漫哲人も及ばぬ奇想も出てくる。余はその奇想を知ることゝたのじみにしてゐる。これからかれ等の思想界が如何に愛らしいか、ノート中より少しづつ抽出して見たいと思ふ。

一 小學校の方が面白い
「幼稚園より小學校の方が面白いや」……と突然いひ出したのは落着いた身体の發育のよい男の兒である。「ネー忠〇さん小學校の方が面白さチ」……